2009ワークショップ開催報告

実行委員：坪井　一彦(コニカミノルタIJ)

恒例のワークショップが、今年もラフォーレ修善寺の研修センター（静岡県伊豆市）を発表会場に、１０月２９日（木）～３０日（金）の間、開催されました。本ワークショップは１９９１年に始まり、エレクトロニクス実装学会の主要行事のひとつとして、本年で１９回目を迎えます。対象は、実装材料、実装プロセス、パッケージング、接合、信頼性評価・解析、ＭＥＭＳ，光実装、検査といった実装分野全般にわたり、ポスター形式での発表が行われています。

いま私たちの周りで起こっている様々な変化を今までの延長線上のものとしてではなく、枠組みや構造の大きな変化としてとらえ、今年度のワークショップ開催にあたりメインテーマを「新産業創出の鍵を握る実装イノベーション」、サブテーマを「付加価値創出とロープライス化への挑戦」といたしました。

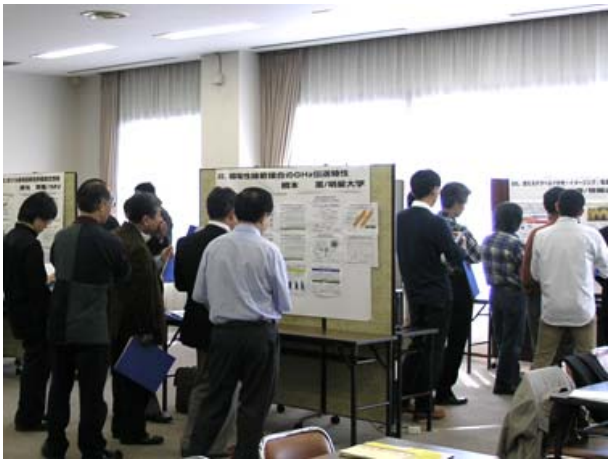
山道主査によるオープニング

本ワークショップでは、「参加者全員が双方向のディスカッションを行い、本音の議論が行える事に主眼を置いた行事運営が行われています。そのため常に一部のポスターからは発表者を解放する時間を設け、他のポスターを囲む議論の輪に質問者の立場でも参加していただいています。さらにノースーツ・ノーネクタイ・写真／録音禁止というルール、修善寺山中の隔離された環境での一泊二日を基本とする設定、夜１０時過ぎにまでおよぶナイトセッションの開催、発表者･参加者混合の部屋割りなど、自由に本音を話し合い親密な人的交流を促す様々な仕掛けが用意されています。参加して初めて分かる効用を、私もあらためて実感させられる２日間でした。

なお昨年来の景気後退の影響から、希望はあっても参加できないケースも多く、総勢６２名と比較的少人数での開催でした。ただし参加者へのアンケート（回収率８３％）からも有意義な人的交流が出来たことがよせられており、かえって密度の濃い活発な議論が出来たのではないかと思います。

ワークショップ初日は、１０時半からの登録で始りました。隔離された環境の裏腹として朝早く起きた方が多かったと思いますが、会場は眠気を吹き飛ばすような独特の緊張感に包まれていました。今年度主査の山道さん（日本電気㈱）より、スケジュールや発表会の進め方などについて説明がありました。引き続き１２時までの間、ポスター発表者　１４人から各々３分間ずつ、発表の概要説明を行っていただきました。

昼食の後、１３時より１６時までの３時間を４５分単位で４つのグループに分け、どのポスターも１回＝４５分間は、発表者不在としました。こうすることにより発表者にも他のポスターを見ることができ、議論に加わっていただけるようにいたしました。



ポスターセッションの様子

初日のポスター発表が終了すると、１８時から理事の猪川さん（日本ＣＭＫ㈱）の挨拶、福岡さん（ウェスティー）の乾杯で、立食形式の懇親会が開催されました。朝の緊張感は完全に取りさられ、会場は和やかな雰囲気につつまれていきました。

ナイトセッション（三好先生）

一休みした後、２０時半より２２時過ぎまで場所を移し、日本工業大学の三好和寿先生からナイトセッションとして「宇宙ステーションと科学技術の研究　～なぜ、我々は宇宙に税金を使うのか～」というタイトルでご講演いただきました。ＮＡＳＡでの３０年間にわたる研究生活を経て今は日本に単身赴任しているとおっしゃる先生から、日米間の物の見方の違いの紹介など考えさせられる事が多く、実装技術とは直接関係しないかもしれませんが、マネージメントの観点等から興味深い話を夜遅くまで聞かせていただきました。

２日目は９時半より初日同様、１４件のポスター発表に対する概要説明からスタートしました。初日よりも遙かにうちとけた和やかな雰囲気の中でポスター発表が行われました。昼食を挟み１４時まで２日目のポスター発表が行われました。

最後にエー・アイ・ティの加藤凡典さんより、今回のメインテーマとサブテーマを冠した特別講演を「三次元実装・モジュール技術が導く新たなビジネスモデル」というタイトルで、１５時まで講演していただきました。最後に近づくほど本音の議論に熱が入りながらも、良い意味の緊張感はとぎれず継続されていたと感じております。

特別講演（加藤氏）

１５時過ぎに最後の挨拶が主査の山道さんからあった後、多くの方が修善寺駅行きのバスに乗り、解散いたしました。最後に、厳しい環境のなかで発表いただいた方々、参加していただいた方々に感謝するとともに、次回も来年の１０月末の同じ時期を予定しております。次回も引き続き参加していただくこと、新たな参加者が増えることを願い、ワークショップ開催報告といたします。